



うさぎ農園

農園主

つきの  
月野

よう  
陽

氏（熊本県合志市）

令和6年12月取材

## 航空自衛官から農業者へ ～ 故郷へUターン、新規就農し、夫婦で農園を経営 ～

### 【経緯等】

うさぎ農園の園主である月野 陽氏は元航空自衛官。石川県での勤務時代に知り合った亜衣さんと結婚。その後、陽氏の祖父と父親が競争馬用の牧場経営を廃業することをきっかけに、その跡地を活用して就農することを決意。亜衣さんと二人三脚で農園経営を開始した。

### 【取組内容等】

陽氏は就農するに当たって、農業大学校へ週に1～2回通い、研修を受けた。就農後は、カフルで当時は見た目にも珍しかった西洋野菜の栽培を始めてみたが、市場に流通できないハンディもあり、販路開拓に苦慮した。そこで、キッチンカーでの移動カフェを試みたところ、徐々に野菜を食べてもらえる機会が増え、飲食店やホテルとの取引にもつながるようになった。

また、陽氏は農業大学校での研修を通じて、県内で有機農業を実践する農業法人と出会ったことなどをきっかけに、自らも化学農薬や化学肥料を使用しない農業を実践している。

現在はキャベツやほうれんそうなどのおなじみの野菜も含め、年間200品目ほども栽培している。

亜衣さんが担当する自家製の米や野菜を使った加工品はドレッシングやソース、米粉ドーナツなど約100品目。人気商品のひとつである、にんにくを使った加工品は「昔、祖母が作り置きしていた保存食のアイデアを生かしています。」と陽氏は語る。

### 【今後の事業展開】

当農園では、国の「雇用就農資金」などを活用して新規に雇用し、従業員は全員が20～30歳代の若者である。その若い人材には、やりたいことは自ら見出す積極性と発展性を期待しつつ、新たな経営展開の青写真も描いている。

陽氏は、「体験や経験が、気軽に楽しくできるような学校や農園の経営を目指したい。」と、将来はスタッフの一員としての活躍が期待される相棒のポニー達に目を細めながら、熱く語られた。



移動café



「ルーロ合志」駐車場の無人店舗



月野 陽氏 ～相棒のポニー達とともに～

### 経営概要

- 農園設立：平成24年4月、令和元年法人化
- 役員：取締役社長 月野 亜衣 氏（陽氏の配偶者）
- 従業員：8名（正社員3名、パート3名、アルバイト2名）
- 経営面積：7ha（米2.5ha、野菜3.5ha、緑肥等）  
野菜200品目、加工品：100品目
- 主な販路：交流サイト（SNS）を通じた個人や飲食店への直接販売  
その他：無人店舗での販売や移動café（イベント時）
- 国の事業の活用：雇用就農資金（令和4年度、令和5年度）



就農当初の月野ご夫妻